

商品づくり 将来に生かす



大口の保冷剤メーカー

飯南高生が就業体験

松阪市の飯南高校の二年生三人が七日、大口町の保冷剤メーカー「三重化学工業」でインターンシップ(就業体験)をした。水を固める成分の量を調整してさまざまな硬さの保冷剤を作製。生産工場の見学もあり、地元には特色のある企業があることへの認識を深めていた。

(富田章午)

三重化学工業は一九五六 化したブランドを立ち上げ(昭和三十一年)年に創業。 ている。ここ数年、猛暑が市内の優れた中小企業の事業を資金面などから支援する市の補助事業の対象企業となり、医療用保冷剤に特



新築・増改築のことなら
フォーホーム
津市殿舟 6059-2374488
見積無料



保冷剤を作る工場を見学する生徒ら

マスク」も開発した。

この日、生徒たちは保冷剤の作製を前に、企画開発室の木下聡係長(仮)から保冷剤に入っているさまざまな成分について説明を受けた。液体に入れる量を多くすればするほど固まりやすくなる「ゲル化剤」や、液体が凍るのを防ぐための「不凍液」などの成分について、生徒たちは真剣な表情でメモを取っていた。

説明後、三人はそれぞれ「硬いの嫌な人もいるだろうから、軟らかくしたい」「突き指などで痛めた部位を冷やせるように仕上げたい」などと、自身の経験も踏まえてオリジナル冷ゲル化剤を入れる量を教わ

り、慎重に水に加えていった。最後は食用色素で赤や緑など鮮やかに着色し、袋に詰めて仕上げた。完成品は自宅に持ち帰った。

同社の食品用の保冷剤「スノーパック」を作る工場の見学では、木下係長が一日で二十万〜三十万個もの数を生産していると説明していた。

体験後、山端陸央さん(二)も社員との交流で、客のニーズを捉え、商品のアイデアを出し合う大切さも学んだという。「自分の将来に生かしたい」と話した。木下係長は「地元には面白い会社がたくさんある。いろんな経験をしてみたらえれば」と語った。

就業体験は津市のNPO法人「アトリオ」が県内の企業に興味をもってもらうと、二〇二二年から行っている。

木下係長から教わりながら、保冷剤を作っていく生徒。いずれも松阪市の三重化学工業で